

今こそ連携・協働する取組を

各学校では、学校運営協議会で地域でどのような子どもを育てるのか、何をめざしていくのかという目標やビジョンを共有しながら、いろいろな活動に取り組まれています。現在行っている活動が、目指す子ども像とどのように関係しているのか、どのように役立っているのかなど今一度振り返り、学校、家庭、地域が連携・協働した活動へとつながるように願っています。

地域連携教育エリアアドバイザー 藤本 憲司



阿武町の推進構想

阿武町の課題

中学3年生の自己肯定感、自己有用感が低い。地域行事に多く参加しているが地域への関心が低い。
(H30全国学力学習状況調査より)
→ 従来の中学生の行事参加にやらされ感があるのではないか。子供が意識をもち主体的に取り組めていない。

阿武町における人口減少、高齢化に伴い地域活動や地域行事を行うことが難しくなっている。町としても、地域や町の活動を活性化させたいという願いはあるが、課題解決に至っていない。



阿武町の重点取組 (H30年5月より実践)

○阿武町の目指す方向

社会の創り手や担い手としての自覚、自己肯定感や有用感を高める。

中学生・高校生による地域貢献ボランティア (阿武町独自の取組)

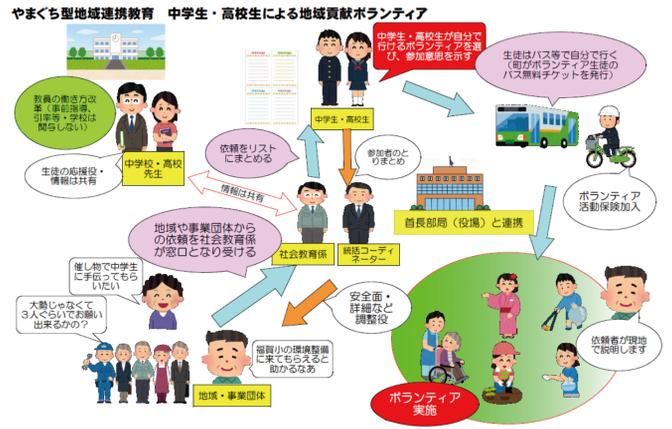
- <特徴>
- ①生徒と地域の連絡調整を学校ではなく、社会教育係や統括コーディネーターが行う。
 - ②生徒は参加可能なボランティアを自ら選び、自ら実践する(生徒の主体性や実践力の育成)
 - ③首長部局との完全な連携・協力により成り立っている。
 - ④中学生と高校生の共同活動による学び(企画・参画)。

合言葉は **For the Town**

「僕たちは地域のために何ができるだろうか」
「僕たちは地域のために何をすべきだろうか」



生徒がオリジナルTシャツ作成



- <取組の成果>
- 地域からこの活動に対する喜びの声が多く聞かれるようになり、中学生や高校生の若い力が町を活性化していると町長をはじめ町民からも認められるようになった。
 - 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果から「自分にはよいところがあると思いますか」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の項目では、阿武町の数値が県平均、全国平均を大幅に上回っており、この活動を通して生徒の自己肯定感や地域のことを考える力が高まったと判断できる。

活動取組

福賀小学校環境整備・プール清掃 <5月12日(日)参加中学生16人>



福賀小学校グラウンドの除草作業やプール清掃を地域の方や中学生が行ってくれました。中学生が熱心に取り組む姿は、小学生の良いお手本となりました。



福賀こいのぼり運動会スタッフ <5月26日(日)参加中学生7人>



福賀出身の中学生がスタッフとして、また参加者として運動会に欠かせない存在です。人手が少ないので助かります、いつもありがとう!



光と恵みの里まつりスタッフ <6月16日(日)参加中学生10人・高校生8人>



福祉施設のお祭りで、中学生や高校生が各種模擬店のスタッフとして手伝ってくれました。接客では、すすんで声をかける高校生の姿に感心しました。



ABUスイムラン道の駅フェスタ スタッフ <7月7日(日)参加中学生13人・高校生20人>



県内外からの選手が参加するスポーツイベントで中学生・高校生がスタッフとして大活躍してくれました。若い力のお陰で大会も盛り上がりました。【実行委員会事務局 藤田康志】

